「神戸女学院の 100 冊」書評コンテスト

書評コメント

氏　　名　濱地　萌々奈さん

学科・学年　総合文化学科　　４年

本 の 題 名　『音楽と言語』

本 の 分 野　作曲分野

コメント：

評価の手順:

書評の果たすべき機能を満たしているかについて、まず以下の 2 項目を評価した。

① 本の紹介

・本の内容や構成

・どのような先行研究に基づき、どの部分が独自の論なのか

が的確に示されているか

② 内容の評価

・この本の独自性の評価、新たな見解が示されているか

・議論の展開に説得力があるか

が的確に論じられているか

以上 2 点をふまえた上で、書評全体の構成や説得力の評価を加えた。

評価理由:

評価手順①の内容の紹介という点については､多岐に渡る音楽史的内容をよくまとめており、ゲオルギアーデスの論点を執筆者がよく理解していることが示されている｡②の内容の評価については、執筆者自身が深めたというよりも的確にピックアップして論じた印象だが、この専門書から的確にピックアップできることそれ自体が非常に優れた理解を示しているとも言える。文章は明快で、よく工夫されている。強いて言えば、1952 年の講義を訳した本書を 70 年後の現代に読みなおす意義を評に加えることができれば、さらに書評としての機能が上がると思われるが､その域に至るには芸術文化歴史全般についてのさらなる経験が必要となろう。学生の書評として十分に最優秀レベルであると評価する。

担当者氏名　音楽学部音楽学科教授　なかにし　あかね